



コールサック(石炭^{ぶくろ}袋)

みやざわけんじ ぎんがてつどう さいご あらわ
宮澤賢治の「銀河鉄道の夜」で、旅の最後に現れる、
深くて黒い冥界^{めいかい}に通じる穴^{あな}として描かれる石炭袋(コー
ルサック:coalsack)は、南十字星のすぐわきにある巨大^{きよだい}
な暗黒星雲の名前です。日本からは見えないので、物語
の題材^{だいざい}としては不気味な感じ^{ぶきみ}がより醸し出せたのでしょ
うか。ここは^{こうかい}大航海時代(15世紀頃)から知られていま
したが、天の川の中で星のない部分は他にもたくさんあ
り、19世紀にはホール(穴)とか、ブラックホール(黒い
穴)と呼ばれるようになりました。ブラックホールといっ
ても、^{げんざい}現在のわれわれが知っているブラックホールとは違
い、^{たん}単に黒い穴というだけのネーミングです。

ブラックホールは、ここだけ星がない^{くうそ}空疎な空間では
ないかと考えられました。黒い部分の^{そんざい}存在に気づき、
^{きろく}記録したハーシェル親子は、「空いたスペース」(Vacancy Place)と呼んでいます。しか
し、「なぜここにだけ星がないのか？」は当時としては、^と解けない謎^{なぞ}でした。

19世紀の^{すえ}末頃から20世紀初めにかけて、アメリカの天文学者バーナードは、ここには黒
い雲があって背後の星を隠しているに違いないと考えるようになりました。彼は、黒い穴の
^{しゅうい}周囲には散光星雲が多くあること、星の明るさと数の分布^{ぶんぷ}がかなり不自然であることを丹念
に調べて、暗黒星雲の^{そんざい}存在を予言したのです。

いまでは、コールサックは冷たいチリが豊富^{ほうふ}に存在する「暗黒星雲」であることが分かり、
内部では多くの星が作られているのではないかと考えるようになりました。



天の川の中でかなり目立ちます。

Credit:K. Don and NOIRLab/[NSF](#)/AURA